

**露地メロン、マクワウリ**  
(ウリ科)

保温対策と早めの整枝を行う。家庭菜園でも梅雨から真夏には病害虫防除が必要です。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早熟栽培 (露地メロン)				保温 播種	トンネル 定植			収穫					
露地移植栽培 (露地メロン、マクワ)													
露地直播栽培 (マクワ)													

※トンネルは着果後も雨よけに利用する

1) 適地

生育適温が高く乾燥、多日照を好み、雨を嫌います。有機物が多く、耕土の深いところが適します。極力連作は避けます。本格的なネットメロンの栽培にはパイプハウス等の施設が必要です。ここでは露地メロン、マクワウリの地ばい栽培を紹介します。

2) 品種

露地メロン：プリンスPFメロン、キューピット、サンライズ

マクワウリ：金太郎マクワ、悠紀メロン、ニューメロン、トラマクワ

3) 作り方

【圃場の準備】定植の1か月前に1m<sup>2</sup>当たり2kgの堆肥と苦土石灰100g、BMようりん50gを施用し、深く耕しておきます。定植1週間前に基肥として本圃1m<sup>2</sup>当たり緩効性肥料80gを、畝の中心付近の幅1mくらいの場所に施用して耕耘し、その部分のみにマルチを張ります。排水の悪い畑では畝間の明渠を深く掘り、確実に尻水戸につないで排水できるようにしておきましょう。畝幅はメロンで2~2.4m、マクワウリで2mくらいにします。

【育苗】土壌病害のリスクを低減するため、接ぎ木苗を購入するのが原則です。自分で育苗する場合は、10.5cmのポリポットに市販の培土を充填し、温床を利用して播種・育苗します。温床の温度は、播種直後から発芽までは最低25℃を保ち、発芽を確認したら20℃に下げます。その後は、1日に1℃ずつ設定温度を下げ、定植までは最低16℃を保って管理します。

【定植・直播】定植適期の苗は本葉4~5枚で、早熟栽培は4月中旬、露地移植栽培では5月上中旬です。定植の前日には、苗に十分に灌水し、できるだけ根鉢を崩さないよう株間90cmで定植します。

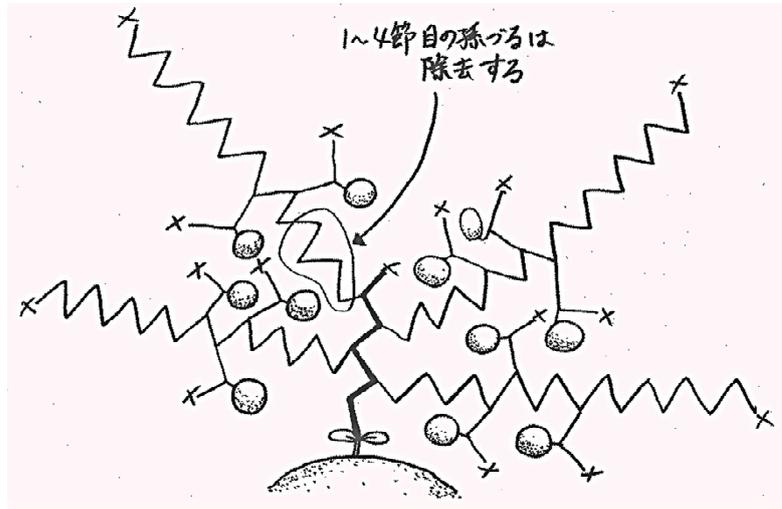
マクワウリでは直播もでき、その場合は1か所に4粒程度播き、本葉が2枚になるまでに1本に間引きます。

【トンネル管理】トンネルやホットキャップをしたら4日ほどは密閉します。活着したら、トンネルでは風下側の裾をあげ、徐々に換気します。目安として、日中は30℃以

上にならないように、また夜間は 15℃を下回らないように管理します。日中気温が高くなればトンネルの裾を上にあげます。気温が上昇し、トンネルが不要となった後でも、トンネルのフィルムを株元の雨よけとして残すと、病害や裂果の防止に役立ちます。

【整枝・着果】

露地メロン:本葉5～6枚のときに摘芯して、生育のよい子づるを4本伸ばし、畝に広がるように配置します。子づるの7節目までの孫づるは早めに除去します。子づる8～10節目に出る孫づるに着果させ、着果させた孫づるは着果節から1～2葉先で摘芯し、それ以外は放任します。



整枝方法

マクワウリ:本葉5～6枚のときに摘芯して、生育のよい子づるを4本伸ばし、畝に広がるように配置します。子づるの4節目までの孫づるは早めに除去します。子づる5～10節目までの孫づるに着果させ、着果させた孫づるは着果節から1～2葉先で摘芯し、それ以外は放任します。

【人工交配・摘果】晴天時の午前中に人工交配を行うと着果しやすくなります。人工交配の方法はスイカの項を参考にして下さい。着果を確認し、鶏卵大まで果実が肥大した頃に、子づる1本当たり3果程度になるように摘果します。

【追肥】開花期に窒素が効きすぎるとつるぼけになるので肥料のやりすぎには注意します。着果後、果実が鶏卵大になった頃に1m<sup>2</sup>当たり高度化成肥料 30gを畝肩に施用します。

【敷きワラ】つるがマルチから出る頃、乾燥防止、地温上昇、果実腐敗防止や雑草防止の目的で敷きワラをします。

【収穫】露地メロンは早生種で着果後40日くらい、晩生種で50日くらいが目安です。着果日の分かる棒を立てておき、何個か試しどりをしてから収穫しましょう。外観では着果節の葉が枯れ始めたり、へたの付け根がとれやすくなったり、果皮のうぶ毛がなくなったりする頃が適期で、品種によっては甘い香りがします。マクワウリは追熟がきかないので、果実の色だけでなく、開花後の日数で収穫します。開花後30～35日で収穫できます。

4) 病虫害防除

梅雨の頃からべと病や炭疽病、疫病が発生します。排水をよくしておくことで被害が軽減できます。また、梅雨明けからはうどんこ病が多発します。害虫では、アブラムシ類やアザミウマ類が多発することがあります。定植時の粒剤施用に加え、発生した場合には早急に防除しましょう。